

## F-16 理論食料費試算法とその展開(第3報)

佐賀大教育 出石康子

目的 生活条件の異なる種々の家庭に、適切な食料費計画のための資料を、わかり易い情報として提供し、より多くの人が容易に活用しうる方法を得ることを目的とした研究の一環で、第1段階は情報化と前提とした食料費試算法の開発と、この方法によって得られる試算食料費との対比による、新しい実態食料費の分析検討法から、今まで明らかにされなかった部分の実態食料費の特色の把握を可能にした。第2段階では生活の各要因のちがいによる理論食料費の変容の特色の指数化をはかり、パターン化を試みた。特に対象集団を細分化していく場合に焦点をあて、今回は地方別の月別の理論食料費に關する問題を取り上げた。

方法 各地方の月別の理論食料費を試算し、各地方毎の年平均1か月の金額を100とした指数で表わした。別に各地方の消費者物価月別指数(食料)についても、同様に年指数を100とした指数に変換した(資料は消費者物価指数年報による)。時系列の検討には消費者物価の変動による影響は無視し得ないと考え(年次の場合程ではないとしても)、後者の指数を用いて前者の指数を補正後、パターン化を行なった。

結果 前回報告した全国的視点に立った理論食料費月別パターンに対比すると、地方毎に特色ある差異を示し、その特色のあり方によっていくつかのグループ別のありと知った。日本の季節と食生活の地方的特色との関連についても、認識を深めた。したがって地域性導きの立場から、その地方の特殊性を活かしうる新しいパターンの作成が好ましく必要でもあると考え、それぞれの地方別のパターンも作成した。